

空気環境（空気質と風速）の測定のレポートについて

全体的に、前回、前々回のレポートよりも良くできている印象でした。特に、分量も多く、大変だったと思います。それでも、幾つかの問題点や前回の注意点を聞いていないと思われる人がいました。以下の点に注意して、今後のレポートの作成に取り組んでください。

- 1) 項目をたてる時には、きちんと階層構造にしてください。
- 2) 平面図には、縮尺もしくは寸法、方位などを入れてください。建築を学んでいるのですから。また今回の場合では、風の出入り口である「窓」などのように、実験に関係するものについても記入してください。と、前回は書いたのですが、今回も光の入ってくる「窓」の位置などは必要です。きちんと記入してください。
- 3) レポート中の図表の読み方も、読み手にわかるように、最低限で良いですから、書き込んでください。と、これも前回にも書きましたが、未だできていない人もいました。何度も言いますが、読み手が読みやすいレポートの作成を心がけてください。自分で読んでわからないものは、他人が読むと、さらにわかりません。
- 4) 補正係数を求めた実験なども、書き入れてください。
- 5) グラフを作成する際には、できるだけ、見やすいように工夫してください。グラフの作り方がわからない場合は、Excelのヘルプで調べるなり、自分で本を買ってくる（研究室配属になれば、どうせ使うのですから）なりしてください。また、タイトルや単位をきちんと入れてください。
- 6) 机の高さは、何cmであったのか、明記してください。
- 7) 実験のレポートは、基本的には、他人がそのレポートのみを読んで、同じような実験を行うことができるように書いてください。自分だけがわかっているだけでは、いけません。
- 8) 等温線や等照度線は、普通は交わりません。かなり特殊な場合もあるでしょうが。